

公益社団法人
中部日本書道会

濃飛

濃飛支部会報
第5号

●発行●
平成28年2月
濃飛支部広報部
電話 0573-65-6982
FAX 0573-65-6982

●印刷●
(株)協和印刷工業
題字 故永治秋聲

第三十回記念濃飛支部展によせて

理事長 伊藤 昌石



公益社団法人中部日本書道会濃飛支部展が第三十回という節目の年を迎えることができ、また、心よりお慶びを申し上げます。これもひとえに役員の方のご尽力と、会員の皆様のご協力のお蔭と厚く御礼申し上げます。

濃飛支部は、一九八五年（昭和六十年）に設立され、ここまでの隆盛を築き上げていただけました先人の先生方、歴代支部長の永治秋聲先生、今井仙童先生、安江子猷先生、市川恵一先生、中川貴舟先生方のご尽力の賜物であったからと深く感謝を申し上げます。

第三十回記念濃飛支部展では、展示作品を通して熱意や心意気が伝わってきました。猛暑に向かう時期の中で暑さを忘れるくらい熱い練習に励まれたことでしょうか。日頃の練習、不断の努力があつてはじめて成り立つのが作品です。試行錯誤を繰り返しながら、やがてその人らしい作品になります。力

を十分に発揮され、力作を出品されていきました。

また、会場では臨書作品が目にとまります。形を学び、心を学び、運筆を学び作品化することは、並大抵のことではありません。古典を自分のものにした時、はじめて古典が作品になり、創作にも生かされると思います。

本会の目的条項には「本会は書写教育の推進と書道芸術の振興発展をめざし、書写及び書道の普及振興を図り、文化の向上発展に寄与することを目的とする。」とあります。社団法人中部日本書道会が解散し、二〇一一年（平成二十三年）十一月に公益社団法人中部日本書道会が設立しました。この法人は、書道の普及、書道芸術の高揚および書道教育に関する事業を行い、日本文化の発展に寄与することを目的としています。

今後も濃飛支部の役員・会員一同が一丸となり、濃飛支部および濃飛支部展のますますのご隆盛とご発展をご祈念申し上げます。

支部長新年の御挨拶

石原 聲風



新年明けましておめでとうございます。寒さ厳しい中、会員の皆様には輝かしい新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年の七月、濃飛支部長を総会にて再任頂き二期目を務める事となりました。そして、濃飛支部設立三十周年記念行事を開催致しました。恵那文化センターに於いて支部展・講演会を開催し、記念展には作品五十二点を展示し、会場には中日書道会八十周年記念行事のビデオも放映致しました。

講演会には、徳川美術館の四辻秀紀氏をお招き致しました。続いて恵那峡グランドホテルにて交流会を開き、開会に当たり「たんぽぽ作業所」の太鼓演奏もあり、盛大に開くことが出来ました。

十二月には、研修旅行として徳川美術館へ源氏物語絵巻展を見に行く事が出来ました。一連の行事に当たり、役員・会員の皆様には多大なるご協力を頂き厚く感謝申し上げます。

さて平成二十八年です。本年も書道を通して会員・地域の皆さんと交流を図る、又書の文化の普及が少しでも出来たらそんな思いでいっぱいです。今回第五号の濃飛支部会報を発行す

るに当たり、役員・会員各位の方に感謝申し上げますと共に二十八年の濃飛支部の行事に於いても、皆様のご支援をお願い申し上げます。御挨拶と致します。



平成二十七年

第三十回濃飛支部記念展

会期 七月二十四日(金)～二十六日(日)
会場 恵那文化センター

出品数 五十二点

入場者 二百余名

本部より伊藤

昌石先生、松永

清石先生、関根

玉振先生の賛助

出品を頂きました

た。出品から展

示の準備、後片

付け等多くの

方々のお力添え

により盛大に展

示を終える事が

出来ました。



濃飛支部展の感想

田口 秋水

今年度は第三十回と言う記念展で、いつもは、中日に出品した作品だけの支部展でしたが、記念展と言う事で、各自が中日の作品の他にもう一作品を出品した事で、いつもとちがう支部展になったのではないかと思います。次回の記念展も同様に出来たら良いと思います。

また、濃飛支部の会員の方と出会う機会がこの支部展の会期中だけなので、作品を見る際に書いた人に話を聞いて、色々と勉強になる話や自分の作

品に対して、ここをこうした方が良くはないかとアドバイスをして下さる方もいて、毎年良い刺激になっています。この刺激を受けて、次回作に生かしていければ良いと思います。

支部集会

日時 七月二十六日(日) 一時半～

会場 恵那文化センター会議室

支部長挨拶に続き、本部からお越し頂きました横井宏軒先生、佐野翠峰先生の紹介と祝辞を頂きました。議案審議では二十六年事業報告、二十六年収支決算報告がなされ、全員一致で了承されました。

続いて二十七年事業計画案が提案され、研修会は未定のまま了承されました。続いて二十七年収支予算案が提案されました。会員減少により財政が苦しく、会員増に努めなければという意見と共に予算案も可決されました。又、今年役員改選の年で、改選案が提案されました。



講演会

日時 七月二十六日(日) 二時～

会場 恵那文化センター会議室

講師 徳川美術館学芸部長

四辻秀紀先生

演題 文房四宝…主に墨について

徳川美術館の古墨コレクションを中心映像で説明しながらわかり易くお話ししてくださいました。中国の明時代の古墨は五百丁余りも収蔵されているそうです。文人の嗜みとして愛用され、風雅を楽しむ精神を浄化させ高めるため、贅の限りをつくしたすばらしい宝であったそうです。



交流会

日時 七月二十六日(日) 五時～

場所 恵那映ランドホテル

開幕は、恵那たんぼば作業所の皆さんによる『恵那の祭り太鼓』でした。真剣な眼差し、汗を流しながらの力強い演奏、心に響く鼓動に感動し涙する人もありました。その後、役員挨拶と本部の先生の祝辞を頂き乾杯をしました。料理に舌鼓を

打ちながら会員相互の親睦をはかりました。本部の先生方とお話が出来、書の話を通じ、質問している会員の姿も見られ、楽しい交流会も盛会のように終りました。



第65回中日書道展 入賞者

- 準大賞 松田秋芳
- 準特選 工藤雅翠
- 秀逸 成瀬伸芳 / 河村友紀
- 奨励賞 磯村小園
- 佳作 佐古知蕙 / 野村香泉

準大賞を受賞して

松田 秋芳



この度、第六十五回記念中日書道展に於いて準大賞という身に余る賞をいただき大変恐縮致しております。還暦の頃まで書に無縁だった私にこんな大きな賞を受賞出来たのも、今は亡き恩師永治秋聲先生をはじめ諸先生方の御指導のお蔭と深く感謝申し上げます。

今私は、古希過ぎても介護職、農業と欲張りな生活を送っており、なかなか落ち着いて書を書く事が出来ません。今迄、作品締め切りの間際に短期集中型で書いておりましたが、これを機に師が常に言っていたみえた臨書をしっかりと勉強し、賞に恥じない様努めなければと反省しております。今後共よろしく御指導賜ります様お願い申し上げます。



感謝状表彰

前濃飛支部長

中川貴舟 氏

二十七年六月二十一日、中日書道会より本会に功績があった方に感謝状表彰が手渡されました。



研修旅行

期日 十一月二十日(金)

行先 徳川美術館 ノリタケの森見学

国宝源氏物語絵巻特別展開催に合わせ研修旅行にバスで行きました。

六時五十分の下呂を出発しました。徳川美術館に九時半頃到着、十時より三十分程度、学芸部長の四辻先生より源氏絵巻の解説をして頂きました。絵十五場面は、およそ四年の歳月をかけて保存のための修理がなされました。その修理について映像を見せながら丁寧な説明して頂きました。

今回は開館八十周年を記念して全場面公開となりました。その後で展示会場へ移動し、熱心に観賞しました。

国宝源氏物語絵巻は、平安時代後期十二世紀前半に描かれたとされ、千年の間後世に受け継がれ、人々の心に影響を与え続けていることから考えても、その収蔵の苦勞や工夫が伺い知れ、一場面ごとの絵画的表現や詞書の優美



な書など、時間の立つのも忘れ熱心に見入っている会員の姿が印象的でした。

徳川美術館を後にしてノリタケの森へ向かいました。ここでは陶器や磁器ガラス容器などブランド品が多く展示されています。美しき良き物を見た後帰路へと向かいました。

今年には三十一名もの参加者があり、会員外の方も数名参加して頂き、楽しい交流も出来ました。



第二十四回

壽展 出品者

- 今井 仙童 / 中川 貴舟
- 森 京華 / 谷川 景仙
- 中垣 幸聲 / 熊崎 明雪

さんぽみち

知床を旅して

増田 春暉

知床への旅は、北海道女満別空港からレンタカーで始まります。

斜里岳の麓に連なる広大な耕地の真中をまっすぐにウトロへ向かって走るルートを選択します。道の両側にずっとずっと続いている長く広い野菜畝に延びる畝に魅せられながら、殆ど車の通らない道のドライブは快適そのもの。日本にもこんな場所があるのかとまず感激しきりです。

ウトロに近付き海岸線を走る頃には、波頭で真っ白になって広がるオホーツク海が見えて来ます。冬には流水がやってくる海です。目的地の知床では、手つかずのまま残された原生林、そこに生きる動物達が迎えてくれます。



ウトロに宿泊し、まず訪れるのは知床五湖。原生林に囲まれてたたくむ幻想的な五つの湖は、知床連山を源とする地下水が湧き出て出来た湖です。湖面に写る知床連山は絶景です。ここは熊の生息域の為、出没情報があった日は閉園となるスリルに満ちた道でもあります。狐や鹿、キツツキを見付けてシャッターを切る楽しみもあります。

翌朝はホテルの窓から下の漁港の鮭の荷揚げを見て、その膨大さにびっくりし、前の川を覗いて、鮭と樺太鱒の遡上に目を見張ります。

次は、知床峠を越えて羅臼に降り、国後島を遠望しながら海沿いを行くと野付半島の珍しい風景に出会え、秋にはサングラスの群落が紅色に続いて夢の様です。

四回目の知床の旅を終え帰ってくる『知床旅情』の歌を口ずさみたくなりました。歌を書いて額に入れて飾り、二人でくちずさんでいます。

各社中だより

第十回記念 恵那かな書道グループ展

日時 十一月十三日(金)～十五日(日)
場所 恵那文化センター
後援 中日新聞社
恵那市教育委員会
恵那市文化振興会

今回の記念展は、師であった横地春佳先生の遺作数点、さらに香環会会長榎倉香邨先生の作品、さらに理事の西川寿一先生の作品も展示をさせて頂きました。



会員二十五人の作品三十四点。展示作品は、小林一茶の俳句、牧水・啄木等の短歌作品が主であったが、今回、生徒も扇面作品に挑戦しましたが、なかなかかむつかしく皆さん苦労しました。十回展といっても作品作りには大変でしたが、それぞれがんばってくれました。今回、記念展という事で多数の方にみて頂き、又、先生方の作品もあり大変好評でした。

第三十三回 暢陽会展

日時 十月十六日(金)～十八日(日)
場所 中津川にぎわいプラザ五階
平成二十七年年度暢陽会会員展が、中津川市のにぎわいプラザ五階に於いて、十月十六日より十八日まで開催されました。

今回の暢陽会展に当り、(公)中部日本書道会教育部部長 後藤啓太先生に中津川まで来て頂き「近代詩文」についての講義と指導をして頂きました。「青い空と緑の風と」のテーマで作品を作り、三日間とも晴天に恵まれた会場には、それらの作品を含む七十点余が展示されました。

懐かしい永治秋聲先生の遺作七点、又は読売書法展に出品した会員の八点など大きな作品などもあり、会期中には後藤先生と奥様をはじめ大勢の皆様が御来場頂きました事を心から御礼申し上げます。



第五十三回 永治書院教育書道連盟 学生書き初め展

期日 二月二十日(金)～二十二日(日)
場所 中津川にぎわいプラザ五階

平成二十七年年度の学生書き初め展が、二月二十日から二十二日まで、にぎわいプラザ五階で開催されました。昨年に引き続き、

小学校低学年の子供達も半切の大きな紙に挑戦し、各自が今一番書きたいことを力一杯書き上げました。



又、暢陽会会員の出品もあり、会場を盛り上げておりました。会期中は、大勢の子供達や御父兄を始め、おじいちゃん、おばあちゃん方に御来場を頂きました事を感謝し、御礼申し上げます。

歓迎 新入会員

今井 和子 (下呂)
鈴木由木江 (恵那)
会員が増え、みんな「入会して頂けてよかったね」と喜んで頂いています。よろしくお願ひします。

新規会員募集

(公)中部日本書道会濃飛支部会員を募集しています。書道の好きな方、書道を通し交流を図りたい方、大歓迎です。詳細は事務局まで。

(担当) 大野聲泉

☎〇五七三二一八二一三三二八

平成28年度 事業活動計画

Table with 3 columns: 事業名, 予定年月日, 実施開催場所. Rows include 支部展, 支部集会, 講演会, 支部交流会, 企画委員会, 役員会, 研修会又は講習会, 支部報6号.

編集後記

昨年二十七年は、戦後七十年国内外共に大変な年であった。人間が人間として豊かな人格が形成されれば暴力や争いはこの世から無くなると思うのだが。そして国の大もとの憲法が生かされ守られていけば、様々な貧困から来るいじめや自殺等なくなると思うのだが、暗いニュースが飛び回った。人間としてあつてはならない事が平然と行なわれた。

今年、みんなの叡智を結集して明るいニュースが多く聞ける年にしたい。人間もつと賢くならなければならないと思う。かく言う私も心にした。

今年の正月は春の様に暖かかった。春の訪れも早いかなと思ったが、一月も中旬になると大雪も降った。自然の道理はすごいなと思った。

濃飛支部は、自然に逆らわず素直な人ばかり、みんなで力を寄せ合い、少人数でも着実に各事業をなし遂げてゆく。今年度も第五号を発行する事が出来た。みなさんの御協力に感謝し、この広報が何かの役に立つ事を願って筆を置く。

(広報担当) 中垣幸聲